名護市津波ハザードマップ（宮里区）

津波避難場所	海抜m
①大宮小学校	9m
②宮里キリストの教会駐車場	9m
③名護厚生園	10m
④宮里公園	11m
⑤為又公園	15m
⑥柳児童公園	5m
⑦大西公民館	13m
⑧うみのほし幼稚園	15m
⑨名護小学校	8m
⑩市立中央図書館	13m
津波避難ビル	
⑪ホテルゆがふいんおきなわ	

凡例

土砂災害危険箇所　大字界　国道　県道　交差点　津波避難場所　津波避難ビル　ショッピング　コンビニ　バス　宿泊　ビーチ　GS　公園　教育　公共施設　文化

津波浸水深

0.01m以上～0.3m未満　0.3m以上～1m未満　1m以上～2m未満　2m以上～5m未満　5m以上～10m未満　10m以上～20m未満　20m以上

ハザードマップの使い方

① ハザードマップの見方

ハザードマップでは、津波浸水場所と水深予測を色分けして表示しています。浸水の目安は下記を参照してください。地図内の▨で表記されているエリアは**土砂災害危険箇所**、▨は**土砂災害警戒区域**を示しています。現在お住まいの周辺で予測される災害状況を踏まえ、安全な避難場所までのルートの選定にご利用ください。※高潮ハザードマップは浸水深の色分けが津波ハザードマップとは違いますのでご注意ください。

浸水深:0.3～1m
避難行動がとれなく（動くことができなく）なる。

浸水深:5～10m
２階建ての建物（あるいは２階部分までが）が水没する。

浸水深:1～2m
津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる。

浸水深:10m以上
３階建ての建物（あるいは３階部分までが）が完全に水没する。

浸水深:2～5m
木造家屋のほとんどが全壊する。

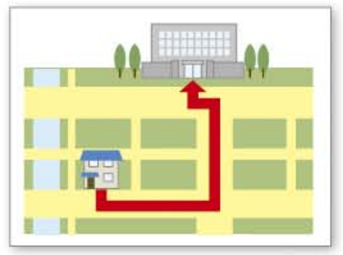
この防災マップは、現行の調査要領によって収集された情報を反映しております。地図で示す各警戒区域外でも、土砂崩れや浸水などの災害が起こる事がありますので住民一人一人の心がけが重要です。

② 避難場所を確認しましょう

それぞれ災害の種別を考慮し、悪天候時や、夜間の視界が悪いことを想定して家族全員で避難場所を確認してください。

③ 避難ルートを地図に記入しましょう

災害の種別による避難場所までの安全なルートを、背面の地図に記入しておきましょう。
家族全員の目の届く所に貼り出しておくことにより、いつでも確認ができます。



④ 避難時の持ち出し品をチェックしましょう

避難時の持ち物チェックリストをもとに事前に準備をしておきましょう。緊急時にすぐに持ち出せるように玄関付近など、保管場所も工夫してみましょう。

避難時持ち出し品

□ 非常用飲料水	□ 救急用品（包帯・三角巾・消毒液等）	小さい子供がいる家庭は □ ミルク、ほ乳びん
□ 食料（カップ麺・缶詰・乾パン等）	□ 筆記用具（鉛筆・ノート等）	小さい子供がいる家庭は □ おむつ、ウエットティッシュ
□ 貴重品（現金・通帳・印鑑等）	□ 衣類（Tシャツ・ジャンバー・下着等）	小さい子供がいる家庭は □ 肌着などの衣類
□ 懐中電灯（予備電池）	□ マッチやライター ろうそくなど	□ その他 1
□ 携帯ラジオ（予備電池）	□ 軍手（厚手の手袋） ヘルメット	□ その他 2

台風について

① 台風が接近したら、まず家の補強

補強する場所は、雨戸、窓ガラス、塀、物干し、アンテナ、看板など。接近までに時間がある場合は、防水シートや角材等も用意しましょう。
また、植木鉢は強風で倒されたり、飛ばされる恐れがあるので１ヶ所にまとめておくと安全です。

② 停電や断水に備え、備品のチェック

飲料水、食料、簡単な医療品、下着、懐中電灯、ライター、ラジオは揃えてリュックに入れておきましょう。

非常備蓄品

□ 非常用飲料水	□ 下着（2～3 着分）	□ マッチやライター ろうそくなど
□ 食料（カップ麺・缶詰・米など 4～5 食分）	□ 懐中電灯（予備電池）	□ ラジオ（予備電池）
□ 医療品	□ 水の確保	１人１日あたり３ℓの水が必要といわれています。「洗う」「消す」「トイレに流す」などいろいろなところで使う必要がありますので、お風呂の水はいつもはっておくようにしましょう。

※１人最低３日分は用意しておきましょう。　※非常時用備蓄品は年に１度はチェックして、新しい物に交換しましょう。

③ 気象情報に注意しましょう

台風等の気象情報は、テレビやラジオ、インターネットなどで最新の情報を収集し、町や防災機関の広報等にも注意して聞いておきましょう。

沖縄気象台
http://www.jma-net.go.jp/okinawa/

大雨について

① 急傾斜地・がけ近くは土砂災害に注意

大雨や集中豪雨で発生する土砂災害。
1. 小石がパラパラ落ちる。
2. 地面にひび割れができる。
3. 斜面から濁った水が流れ出ている。

等を発見したら注意しましょう。
また、避難勧告が出たらすぐに避難してください。

② 冠水した道路の運転に注意

冠水路は迂回をし侵入しないようにしましょう。
冠水した道路の注意
1. 水没したらドアが開くうちに避難する。
2. ゆっくり走っても走りきれるとは限らない。
3. 速度を上げて走ると巻き上げる水量が増え、エンジンが止まりやすくなる。
4. エンジンに水が入れば止まってしまう。
5. 冠水路は水深も水の中の様子もわからない。

名護市役所 2014年9月

TEL: (0980)-53-1212(内線213)
FAX: (0980)-53-6210
eメールアドレス soumu@city.nago.okinawa.jp
ホームページ http://www.city.nago.okinawa.jp/
モバイルページ http://mobile.city.nago.okinawa.jp/

モバイルサイト QR

避難時の注意

いざ避難となった時に‥

- できるだけ軽装で、はきなれた靴を着用しましょう。裸足や長靴は禁物です。
- 隣近所で助け合いながら避難しましょう。
- 一緒に避難する人とはぐれないように、特に子供から目を離さないようにしましょう。
- なるべく乗り物は使わず、徒歩で避難しましょう。

さらに大雨・台風の時は

- マンホールや側溝に注意し、杖などで水面下の安全を確認しながら歩きましょう。
- 強風で危険な物が飛んでくる恐れがあるので、ヘルメットや防災ずきん、厚手の帽子などをかぶるようにしましょう。

地震について

① 落ち着いて身の安全を確保する

テーブルや机の下に身を隠すなどして、まずは自分の身の安全を確保してください。

② あわてず冷静に出火を防ぐ

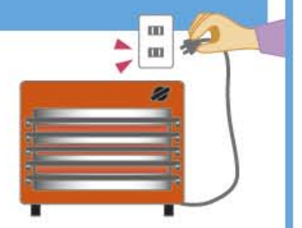
使用中の火を素早く消しガスの元栓を閉めて下さい。もしも火災がおきたら隣近所に協力を呼びかけ、落ち着いて消火にあたりましょう。

③ 窓や戸を空けて出口を確保する

地震の影響による建物のゆがみで戸や窓が開かなくなることがあるので慌てずに出口の確保を行いましょう。

④ 停電後の通電火災を防ぐ

避難で家を空ける時は電気プラグを全て抜いておき、通電した際の漏電や倒れた電気ストーブなどによる出火を予防しましょう。



⑤ 避難は徒歩で荷物は最小限に

⑥ 地震による土砂災害、津波に注意

津波について

① 地震の大きさで自己判断しない

1896 年の明治三陸地震津波では、沿岸での最大震度３程度と小さく避難した人が少なかったため、被害が拡大しています。この地震の津波遡上高が最大で 38.2m を記録しています。小さい揺れでも津波が押し寄せることがあります。

地震の大きさ?

② 津波の前には必ず潮が引くとは限らない

地震の発生の仕方によっては、いきなり大きな波が押し寄せることもあります。平成 15 年（2003 年）十勝沖地震による津波や、2004 年のスマトラ沖地震の際にスリランカやインドの沿岸に押し寄せた津波では、直前に潮が引くことなく大きな波が押し寄せました。

引き潮があるとは限らない

③ 海岸の地形で津波の高さは変化します

岬の先端やＶ字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。

名護市高潮ハザードマップ(宮里区)

猛烈な台風通過時に、大潮と満潮が重なった場合の想定です。